

町田市スポーツ施設整備構想
提言書

平成 30 年 3 月
町田市スポーツ施設整備構想懇談会

はじめに

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、様々なスポーツ施設の新設・改修が行われている。我が国の多くの公共スポーツ施設は基本的に「するスポーツ」を中心に考えられ建設されてきたが、大規模集客型スポーツ施設の中には、国民体育大会を契機に整備され、いわゆる「国体標準」と呼ばれる設計のものも多く、観戦者の視点や収益性の観点が乏しい面があるのも事実であろう。

しかし、スポーツは「する」だけでなく「みる」ことも重要な文化のひとつであることが認知されてきている現在、「みる」ための様々な仕掛けが施されたスポーツ施設が誕生し、人々を魅了している。

スポーツ庁と経済産業省による「スポーツ未来開拓会議 中間報告 ～スポーツ産業ビジョンの策定に向けて～」によれば、2025年までにスポーツ市場規模を現在の5.5兆円から15兆円規模の拡大を目指し、スタジアム・アリーナ改革として、スタジアムを核としたまちづくりを政策の方向性の第1に挙げている。つまり、施設維持費がかかる「コストセンター」から利益を生む「プロフィットセンターへ」という政策である。スタジアム・アリーナへの大規模投資によるスポーツを核とした街づくりは、人口減少下での地域活性化につながり、波及効果を大きく促進するインフラ投資であると述べている。魅力的なスポーツ施設は人々を引き寄せる力があり、街のランドマークとして機能するであろう。

町田市長よりスポーツ施設整備構想について意見を求められ、懇談会にて議論を重ねてきた。町田市はJ2に所属する「FC町田ゼルビア」、Fリーグに所属する「ASVペスカドーラ町田」ラグビートップリーグに所属する「キャノンイーグルス」という3チームを抱えている。

約1,700ある自治体の中でも、こんなにすばらしいスポーツ資産を有している自治体は数少ないであろう。しかし、であるにもかかわらず、スポーツ施設についてはスタジアム・アリーナと呼べる施設はないのである。本懇談会は「するスポーツ」「みるスポーツ」の2つの視点で短期と長期の施設整備に関する提言を行う。この提言が町田市のスポーツ施設整備に寄与できることを望んでいる。

町田市スポーツ施設整備構想懇談会
会長 川崎 登志喜

目次

はじめに

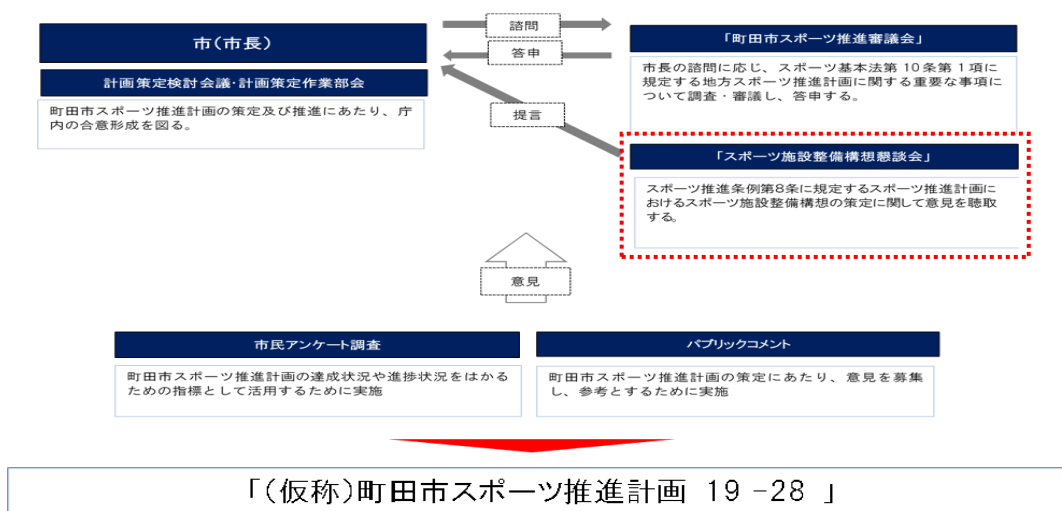
1. 懇談会の概要.....	1
2. 町田市のスポーツ推進の現状.....	2
(1) 市の基本計画におけるスポーツの位置付け.....	2
(2) 町田市5ヵ年計画 17-21.....	2
(3) 2017年度 スポーツに関する市民意識調査アンケート.....	3
(4) 町田市のスポーツ施設の現状.....	4
(5) スポーツを取り巻く状況の変化等.....	4
3. 本懇談会の進め方.....	5
3-1. 基本的な方向性（総論）.....	6
3-2. 各スポーツ施設についての提言（各論）.....	7
(1) 陸上競技場について.....	7
(2) 体育館について.....	9
(3) 野球場について.....	11
(4) プールについて.....	13
4. 参考資料.....	15
(1) 懇談会の開催経過.....	15
(2) 委員名簿.....	16
(3) 近隣市との施設の比較.....	17

1. 懇談会の概要

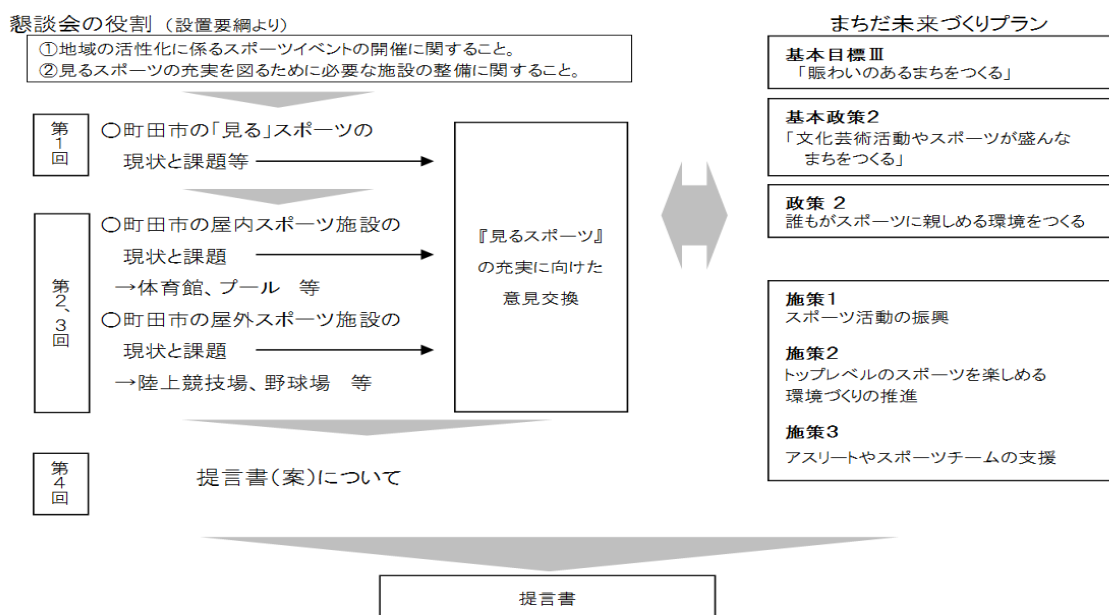
町田市スポーツ施設整備構想懇談会（以下、「本懇談会」という。）は、2018年度に策定する「(仮称)町田市スポーツ推進計画 19-28」を町田市スポーツ推進審議会で検討するにあたり、「地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること」や「見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること」について、スポーツ関係者等の意見を聴取するために設置された。

本懇談会においては、スポーツを通じた地域の活性化、まちの気運醸成など「スポーツを通じたまちづくり」及び観戦の環境、選手の環境、運営上の環境の充実など「見るスポーツ施設の充実」に関して、屋内スポーツ施設と屋外スポーツ施設それぞれについて意見交換を行った。

計画策定における懇談会の位置づけ



懇談会の概要



2. 町田市のスポーツ推進の現状

(1)市の基本計画におけるスポーツの位置付け

まちだ未来づくりプラン

将来の町田市のあるべき姿を見据え2012年度から2021年度までの10年間に、何を目標に、どのようにまちづくりを進めていくのかを示す町田市の基本計画

町田市5カ年計画 17-21

「まちだ未来づくりプラン」の後期実行計画

基本目標Ⅲ

「賑わいのあるまちをつくる」

基本政策2

「文化芸術活動やスポーツが盛んなまちをつくる」

【目指す姿】

市民のスポーツ活動や、活動を通じた交流が盛んに行われ、トップレベルのスポーツを体感できる環境に多くの人が集い、感動や興奮を味わっている。

政策2

誰もがスポーツに親しめる環境をつくる（重点事業プラン）

【政策の取り組みの方向】

誰もがスポーツに親しむことができるよう、市民のスポーツ活動の振興や、トップレベルのスポーツを楽しむ環境づくりに取り組みます。

(2)町田市5カ年計画 17-21

■政策2 誰もがスポーツに親しめる環境をつくる

施策2 トップレベルのスポーツを楽しむ環境づくりの推進

重点事業5 野津田公園スポーツの森の整備（基本計画体系Ⅲ-2-2-2）

事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の中で楽しむ総合スポーツパークを目指し、多目的グラウンドやテニスコートを拡張区域に新たに設けるとともに、幅広いスポーツやレクリエーションを楽しむように公園全体を再整備します。 ・プロスポーツなどの大きなスポーツ大会に対応する競技環境と観戦設備を整備します。 		
目標	① 拡張区域整備 ② 大型映像装置整備 ③ 観客席増設	目標値	① 用地取得完了 ② 2017年度整備完了 ③ 2020年度整備完了

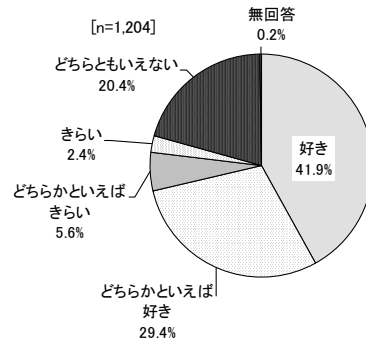
(参考) 整備スケジュール

年度	2017年度	2018年度	2019・2020年度
大型映像装置	整備工事		
観客席増設	基本設計	実施設計	整備工事

(3)2017 年度 スポーツに関する市民意識調査アンケート

問 あなたは、スポーツを観ることが好きですか？(○は1つ)

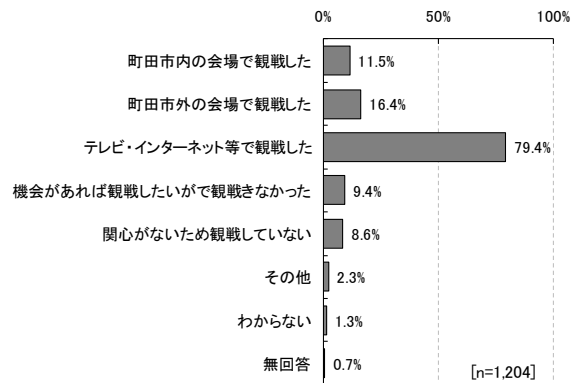
好きという主旨の回答は合わせて **71.3%** となっている。



問 あなたは、この1年間でスポーツを何らかの形で観る機会がありましたか？

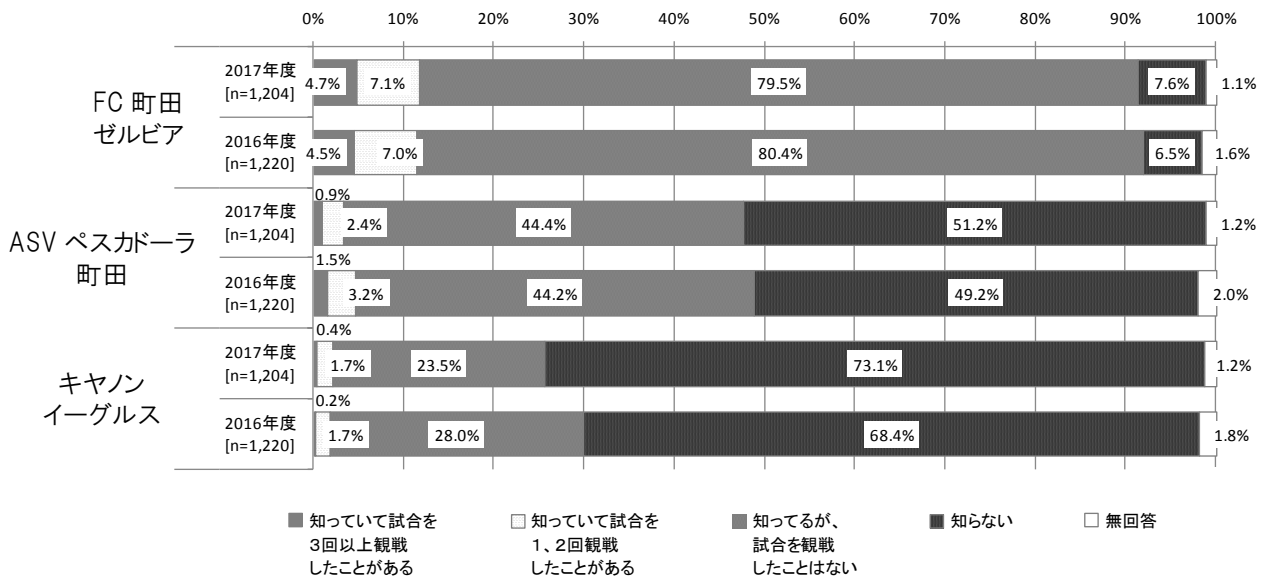
(○はいくつでも)

町田市内で観戦したという回答は **11.5%** となっている。



問 ホームタウンチームの認知度

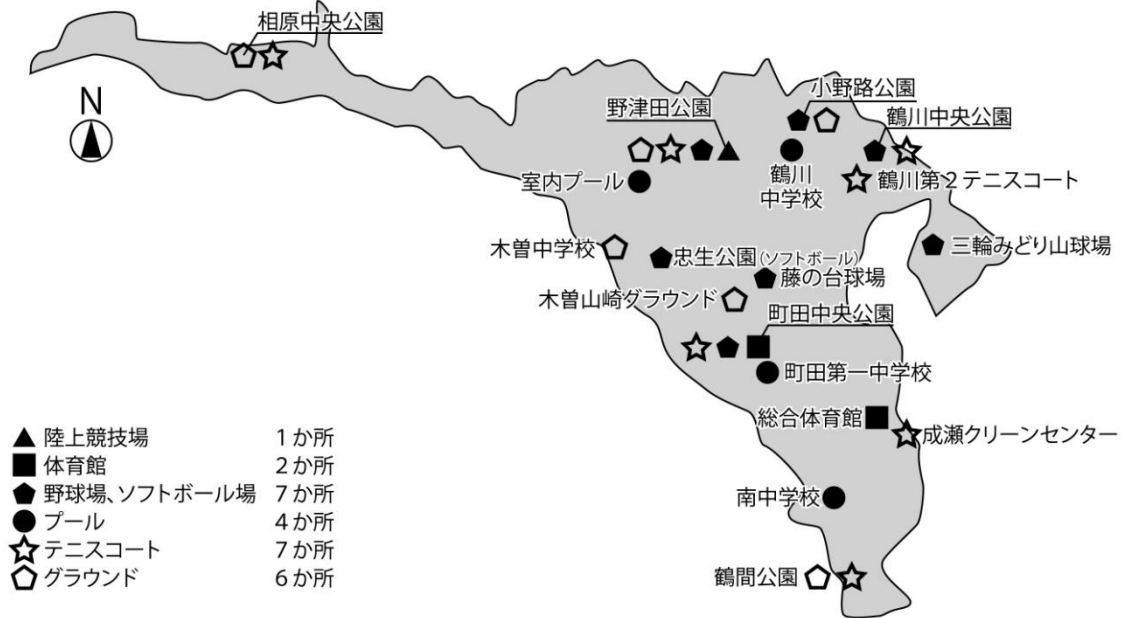
チームの認知度は、2017 年度調査において「FC 町田ゼルビア」が 91.3%、「ASV ペスカドーラ町田」が 47.7%、「キャノンイーグルス」が 25.6% となっている。



(4) 町田市のスポーツ施設の現状

町田市内にある主なスポーツ施設は以下の図のように分布している。本提言書でふれた施設（P. 7以降に記載）は黒塗りの記号で示している。

市民の生活の身近な場所でスポーツに親しめるよう、市内各所にスポーツ施設を配置しているほか、学校施設の開放も行っている。



(5) スポーツを取り巻く状況の変化等

2011年に施行されたスポーツ基本法をはじめ、スポーツ基本計画の策定（2012年）、スポーツ庁の設置（2015年）、スポーツ産業の活性化を推進するスポーツ未来開拓会議の発足（2016年）、第2期スポーツ基本計画の策定（2017年）とスポーツを取り巻く状況は近年、変化してきている。

スポーツ庁は、経済産業省とともに、スポーツによる地域振興及び地域経済の自律的成長に向け、地方公共団体が中心となって取り組むスタジアム・アリーナ整備に関して検討すべき項目を整理するため、スタジアム・アリーナ推進官民連携協議会のもとで「スタジアム・アリーナ改革ガイドブック」を作成した。

また、2020年そしてそれ以降も「スポーツによる地域活性化」を支える人材が輩出されるように、地域活性化の取組を全国から12事例選定し、“まんが”で紹介する事例集を制作し、普及啓発等にも取り組んでいる。

スポーツを通じた地域の活性化は、経済的な効果のみならず、社会的な効果も期待ができることから、「見る」環境の整備は昨今、スポーツ施策の推進において大きな課題の1つと捉えられているといえる。



事例：「vol. 6 サッカーで地域を盛り上げる
～松本山雅FCの歩み～長野県松本市」

3. 本懇談会の進め方

本懇談会では、町田市のスポーツ施設整備に関して「(1) 地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること」「(2) 見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること」について検討を行った。

検討にあたっては、屋内施設（体育館、プール）と屋外施設（陸上競技場、野球場）について意見交換を行い、意見は短期的視点と長期的視点に分けて整理した。また、「見る」スポーツを中心としつつ、「する」スポーツ、「支える」スポーツについても適宜範囲を広げて意見交換を行った。

施設ごとの意見を基に町田市の「見るスポーツのための施設の整備」と「地域の活性化に係るスポーツイベント」について、基本的な方向性（総論）と各施設についての提言（各論）として次のとおりにまとめた。

懇談会における主な意見

- ・「見る」スポーツにフォーカスして施設を考えていくということは非常に開明的である。
- ・町田市の次の都市戦略として、スポーツを活用して町田で暮らす人々の生活をどうデザインしていくかを考えることは重要である。
- ・スポーツに関心の低い人を巻き込んでいくことを考え、イベントや観戦環境充実の方策を検討していく必要があるのではないか。
- ・施設を身近に感じられる町田ならではのしかけができるとよい。
- ・ホームタウンチームを応援する一体感は見るスポーツの魅力である。
- ・町田市内は 10 地区に分かれているが、地区対抗の取組を実施するといったアイデアがあってもよい。
- ・地域経済の活性化にも寄与できるとよいと考え、今後も取組を継続していく。
- ・観光振興の視点から、どのように競技場に来ていただいて、消費していただくかを考えている。
- ・FC町田ゼルビアがJ1に昇格した場合の49億円という経済効果は、行政としても5,000席増席によるメリットの1つの裏付けのデータとなる。

3-1. 基本的な方向性(総論)

基本的な方向性(総論)は以下の5点に整理し提言としてとりまとめた。

① 「見るスポーツ」を楽しめる場づくりとスポーツを通じたにぎわいの創出

町田市内のスポーツ施設は「見る」視点での環境整備について十分な検討が行われてこなかった。

今後は、これまで以上に多くの市民がスポーツ観戦やスポーツイベントを楽しむことで施設内外のにぎわいを創出することを目指すとともに、新たな視点での課題の整理にも取り組み、「見る」スポーツを楽しめる場を創出していくことが望ましい。また、イベント等の実施にあたっては、予算の確保を企画段階から視野に入れて取り組むとともに、市民への情報の周知・PRに一層力をいれていくことが重要。

② 「見るスポーツの場」と「するスポーツの場」のすみ分けを検討する

現在、「見るスポーツの場」と市民がスポーツ活動を行う「するスポーツの場」が混在している状況が見受けられる。特に体育館では施設の利用率が90%を超え飽和状態にあり、「見るスポーツ」と「するスポーツ」の混在も一因であることから、それらのすみ分けを行う方法を検討する必要がある。

③ ホームタウンチームにとっても魅力的な環境を整備する

町田市には市の貴重な資源といえる、国内のトップリーグに所属するクラブが3つあり、ホームタウンチームとしても活動している。

今後もホームタウンチームが活動していけるような魅力的な施設・環境を整えとともに、チームが町田市民の誇りとなり、子どもたちの夢やあこがれとなるよう市がサポートする環境を一層充実していくことが望ましい。

④ 町田市の社会課題を総合的に解決していく拠点としての整備方針を検討する

「見る」スポーツ環境の整備にあたっては、施設周辺の住民の理解をはじめ、騒音問題や交通渋滞などまちづくりに関わる様々な社会課題に直面することが考えられる。

今後は、スポーツの魅力を活かすとともに、市内のスポーツ施設を町田市の様々な社会課題(健康づくり、共生社会の実現、産業振興等も含む)を「総合的に解決していく拠点」とするとともに、バリアフリー化やユニバーサルデザインの視点もふまえ、整備方針を検討していくことが望ましい。また、町田市内に波及していく影響を的確に把握する体制の整備も検討する。

⑤ 町田市のスポーツ施設それぞれの状況をふまえ、優先度の高い施設から整備の方針を検討していく

町田市の基本計画(「まちだ未来づくりプラン」)の後期実行計画である「5ヵ年計画17-21」など、スポーツの環境整備にあたっては、市の事業等が進められている。

関連する市の計画期間等を基準として、短期的な視点と長期的な視点で状況を整理し、優先度の高い施設から整備の方針を検討していくことが望ましい。また、施設整備・運営にあたっては、行政だけでなく、民間資金の活用や広告等による収入なども視野に方針を検討する。

3-2. 各スポーツ施設についての提言(各論)

(1)陸上競技場について

-提言-

①地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

観戦環境の充実を活かした魅力的なイベントを企画、開催する

短期的には	◆観戦環境を楽しめる場づくり、にぎわい創出に取り組む。
長期的には	◆豊かな自然資源やホームタウンチームなど、スポーツを取り巻く環境に恵まれた町田らしい新たな取組を検討する。

②見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

トップレベルの競技を観戦する機会を創出し、 スポーツの魅力発信の拠点とする

短期的には	◆付加価値のあるシート(※)を設置するなど、来場者の満足度向上につながる施設の整備に取り組む。 ◆地域住民への影響をふまえて、ホームタウンチームも効果的に活用できる機能の整備に取り組む。
長期的には	◆見るスポーツを盛り上げるための施設整備を行うとともに、町田市の様々な社会課題を総合的に解決していく拠点として、多機能複合化という視点も念頭に置き、将来的には、ランドマークとなる施設の整備に取り組む。

※VIP席やパーティーシート、ファミリーシート等、食事を楽しみながらスポーツ観戦ができる等、付加価値のついたシート。近年多くの野球場や競技場に設置されている。

1 施設の概要

400メートルトラック(全天候型ウレタン舗装)8コース、7,600㎡のフィールド、メインスタンド2,632席、バックスタンド他7,990席、合計10,622席を収容する施設。公益社団法人日本プロサッカーリーグ(以下、「Jリーグ」という。)ディビジョン2(以下、「J2」という。)の試合開催可能施設であり、また、公益財団法人日本陸上競技連盟による第3種公認陸上競技場(公認については18ページ参照)となっている。

2 現状

- ・見るスポーツの観戦者は、2017年度85,177人
- ・近隣市(相模原市、川崎市、横浜市)には同等以上の設備を有した競技場がある。
- ・ホームタウンチームの興行の場となっているほか、市民のスポーツイベントも開催されている。

- ・ Jリーグディビジョン1（以下、「J1」という。）開催スタジアムの規格である「収容人員1万5千人以上」を満たしていない。
- ・ 陸上競技場で興行を行うFC町田ゼルビアがJ1に参加する場合の経済効果は、年間49億6,300万円と試算されている。

3 課題

① 町田らしい施設整備の方針が必要

- ・ バックスタンド側を全てVIP席にするくらいの柔軟な発想など、来場者の満足度向上につながる施設の整備方針を検討する必要がある。
- ・ 来場者をもてなし、満足度を向上させる仕掛けやサービス面での工夫が必要。
- ・ 市全体で見るスポーツを盛り上げるランドマークとなる施設の整備は、今後重要になる。

② 関係団体の横のつながりを強めていく

- ・ スポーツを通じて地域を活性化していくためには、ホームタウンチームなどのスポーツ関係団体だけでなく、町内会・自治会や子ども会などの地域で活動する団体同士の横のつながりを強めていくことも重要。
- ・ スポーツを通して地域のつながりを強めたり、より一層市外に町田の魅力をPRしていくためには、ホームタウンチーム3チームが横のつながりを強化していくことも重要。

4 懇談会における主な意見

- ・ 現在の状況では、観戦者の満足度を向上させるための十分な施設・機能を有しているとはいえず、「見る」スポーツのためのスタジアムとは言えない。
- ・ 多くの子ども達にスタジアムに来てもらうことも重要だと感じている。
- ・ 平日にほとんど人がいない。日ごろから人が集う場になっているとよい。
- ・ 陸上競技場について、「自分と関係ない場所」と感じている市民が多い。
- ・ 市民の拠り所となるようなコンセプトが必要。
- ・ 避難場所としての位置づけ、もしもの時に市民が足を運べるシンボルになることも重要である。見るスポーツを盛り上げるランドマークとなる施設の整備は、今後重要になる。
- ・ 陸上競技やサッカー以外でも人が集い、施設を身近に感じられる町田ならではの仕掛けができるとうい。
- ・ 単にプラスチックの席を5,000席増やただけでは、町田市のスポーツを見る環境は盛り上がりがない。全国の事例に追いつくのではなく追い越す取組を検討していけるとよい。資源や環境に恵まれた町田だからこそ、町田らしい新たな取組を工夫していけるとよい。
- ・ 町田市の様々な社会課題を総合的に解決していく拠点として、多機能複合化という視点も念頭に置いておけるとよい。
- ・ サッカー観戦に来る人は地域愛着が高いという結果やサッカー観戦を通して地域愛着が高まるといった傾向も見えてきている。
- ・ 施設の名称変更、ネーミングライツの導入も検討できるとよい。
- ・ 大型映像装置を活用したパブリックビューイング等のイベントを実施できるとよい。

(2) 体育館について

- 提言 -

① 地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

地域に身近な「するスポーツ」の場として整備充実を図る

短期的には	◆「プロチームが育つ」、「市民に夢を与える施設」という視点で施設設備の充実に取り組む。 ◆プロスポーツ以外でも観客が集まるイベントや大会等の実施を検討する。
長期的には	◆商店会や町内会・自治会とイベント等の主催者が連携し、地域の活性化の方策を検討する。

② 見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

選手や運営側にも配慮し、「見るスポーツ」の場として整備しつつ、新たな施設整備も視野に入れた検討を行う

短期的には	◆総合体育館で「見る」スポーツを開催するには観戦の環境、選手の環境、運営上の環境設備が不十分な状況にあることから、それらの視点に配慮した設備の拡充に取り組む。
長期的には	◆体育館における「見るスポーツ」の充実に関しては、総合体育館の現状を鑑みると、するスポーツの場として市民がスポーツ活動を行うこととし、見るスポーツを行う環境は別の場所を検討する。

1 施設の概要

① 総合体育館

1990年10月に開館。全国規模の各種大会開催が可能な2,800余の観客席を備えたメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、小体育室、第1・第2武道場、和洋弓場を備え、個人の体力に合った運動の処方や、指導を受けることのできるトレーニング室を擁した総合スポーツ施設となっている。

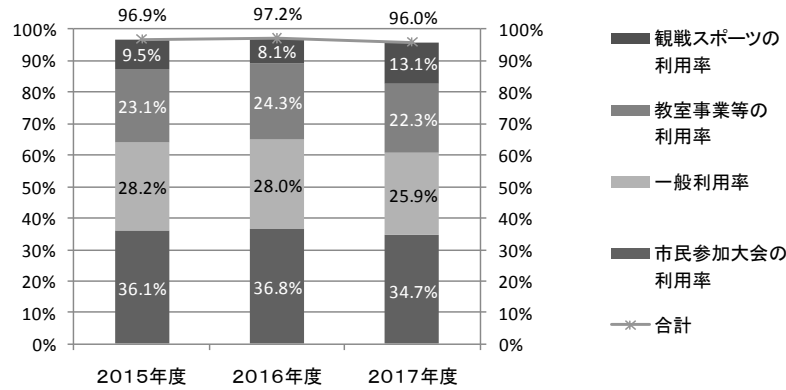
② サン町田旭体育館

アリーナの1階には504席の可動式観覧席と、2階には102席の固定式観覧席及び3台の車椅子用のスペースがある。アリーナは、バレーボール、バスケットボール、バドミントン、卓球等ができる。多目的室では、エアロビクス、健康体操、各種ダンス等ができるほか、トレーニング機器を完備したトレーニング室がある。

2 現状

- ・ 体育館の利用率が高い。
- ・ 市民の利用要望も多い。

総合体育館 メインアリーナの利用率



3 課題

①総合体育館では見るスポーツとするスポーツが混在している

- ・ 「見るスポーツ」が開催可能な総合体育館では、市民の「するスポーツ」の要望も多く、「する」と「見る」が混在している。そのため、施設の役割が明確になっていない。
- ・ 観戦スポーツの施設利用率が低い。

②見るスポーツとしての環境が十分でない

- ・ 体育館は「見る」施設としてのPRが十分でない。
- ・ 大きな大会等を行える場所が、43万人の人口に対して総合体育館1つしかない。(近隣の相模原市や藤沢市では、固定の観客席を500席以上有する体育館が2つずつある。)
- ・ 「見るスポーツ」が開催可能な総合体育館では、映像装置や照明、音響、選手控室等の運営環境（興行的な視点、トップアスリートの視点）が十分でない。
- ・ バリアフリーやトイレ等の観戦環境が十分でない。
- ・ 興行を行うにあたり、大型映像装置や諸室が不足するなど、これまでは想定していなかった課題が出てきている。

4 懇談会における主な意見

- ・ 総合体育館は「見る」を想定したつくりとはなっていない。将来的には「見る」に特化した施設の新設を検討する。
- ・ 「プロチームが育つ」、「市民に夢を与える施設」という視点で、設備の充実は今後検討していく。
- ・ 市民の「する」施設は別にあってもよいのではないか。「サン町田旭体育館」のような施設を新設するなど、小さくても「する場」を増やしていくことを検討する。
- ・ 町田市体育協会が総合体育館で毎年主催している「すぽ一つ祭まちだ」は親子スポーツなど多くの参加者でにぎわっている。この大会を町田市全域で、他の施設も活用して開催できるとよい。

(3)野球場について

-提言-

①地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

「見る」場所として関心を高めつつ利用促進を図る

短期的には	◆「するスポーツ」の場所としての利用促進を図る。
長期的には	◆「見る」機会の創出を通じて市民の認知度や「あこがれ」を高め、利用促進につなげていく。(※)

②見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

広域大会やプロの練習場として「見る」機会を創出する

短期的には	◆市民の「する」場として利用しつつ、プロチームの練習の場としての利用を推進する。
長期的には	◆各種大会の開催場所として、利用率を上げ、市民が「する」場所としての魅力や満足度の向上に取り組む。

※ 「見る」機会の創出（現在、小野路球場では高校野球等の開催やプロ野球チームの練習が行われている）を、市民の認知度向上の機会としてとらえ、同球場でプレーできることへの「あこがれ」など施設の魅力を向上させ、利用促進につなげていく。

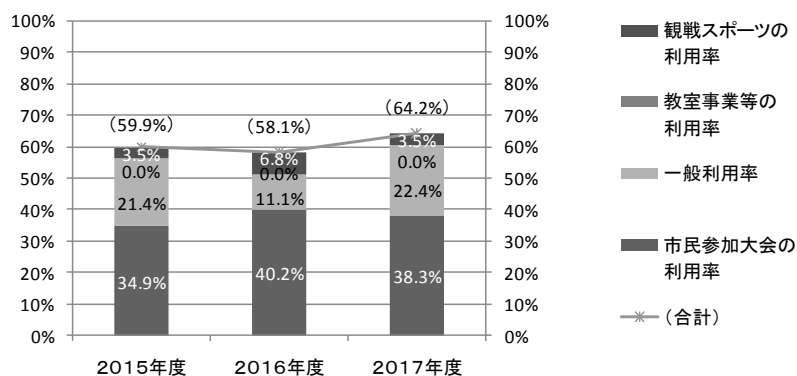
1 施設の概要

小野路球場は、町田市内で唯一硬式球が使用できる野球場となっており、高校野球の予選大会が開催されるなど、本格的な大会にも利用が可能となっている。町田市民球場は一般軟式野球、ソフトボールに使用可能、三輪みどり山球場は一般軟式野球、ソフトボールに使用可能で夜間照明設備を有している。そのほか同様の規模で一般軟式野球やソフトボールが実施できる野津田球場、鶴川球場、藤の台球場、忠生公園ソフトボール場等がある。

2 現状

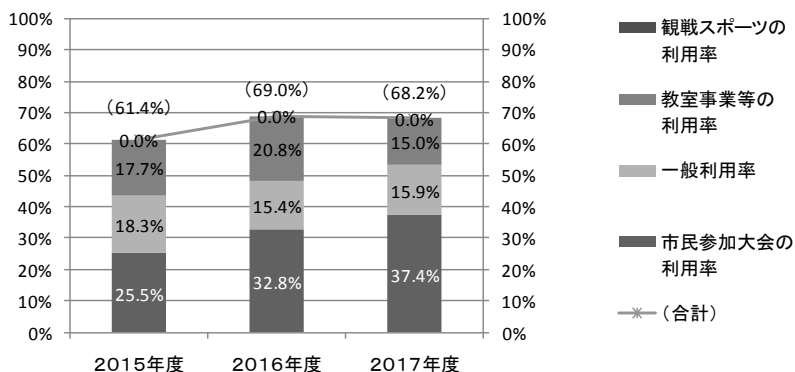
①小野路球場の利用率の推移

- ・観戦スポーツの利用率は、2017年度は3.5%となっている。
- ・市民参加大会の利用の割合が大きい。



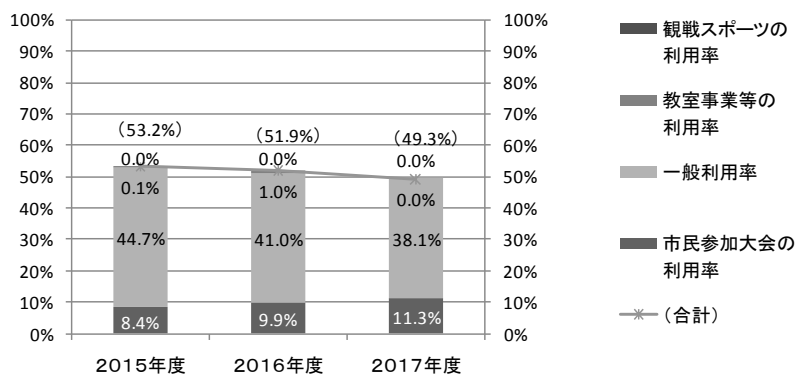
②町田市民球場の利用率の推移

- ・観戦スポーツの利用はない。
- ・市民参加大会の利用の割合が大きい。



③三輪みどり山球場の利用率の推移

- ・観戦スポーツの利用はない。
- ・一般利用の割合が大きい。



3 課題

①施設の目的の明確化

- ・市としてどのような施設にするのかが明確でない。
- ・人を呼ぶことを目的にするのであれば、観客席を増席できるとよい。合わせて、駐車場の整備も必要になる。

4 懇談会における主な意見

- ・市民がスポーツをする場所、スポーツを通じて交流する場所という位置づけ、市民がスポーツを「する」場としての施設でよいのではないか。
- ・平日にほとんど人がいない。日ごろから人が集う場になっているとよい。
- ・人を呼ぶことを目的にするのであれば、観客席を増席できるとよい。
- ・見るという視点で考えるとプロ野球の2軍戦開催は魅力的だと思う。しかし、開催頻度や近隣市で大規模に野球場が整備されたことなどを考えると、町田市として野球場の観客席の整備は、優先順位は高くないのではないか。

(4) プールについて

- 提言 -

① 地域の活性化に係るスポーツイベントの開催に関すること

身近な「するスポーツ」の場として位置付け利用促進を図る

短期的には	◆室内プールは今後も市民が利用できる施設として、現状を維持していく。
長期的には	◆室内プールを新たに利用したいと思う市民を増やす取組を検討する。

② 見るスポーツの充実を図るために必要な施設の整備に関すること

「見るスポーツ」の場所とするかの検討が必要

短期的には	◆広域的な大会を開催する基準を満たしておらず、「見るスポーツ」の場として利用を進めるのは難しいと考えられることから、どのような位置づけとするか検討する必要がある。
長期的には	◆近隣市の状況や費用対効果を勘案して、「見るスポーツ」の場所を整備するか検討する必要がある。

1 施設の概要

町田市内の温水プール施設は、町田市立室内プールのほか、町田第一中学校、南中学校、鶴川中学校の温水プール施設を学校活動に支障のない範囲で一般に開放している。

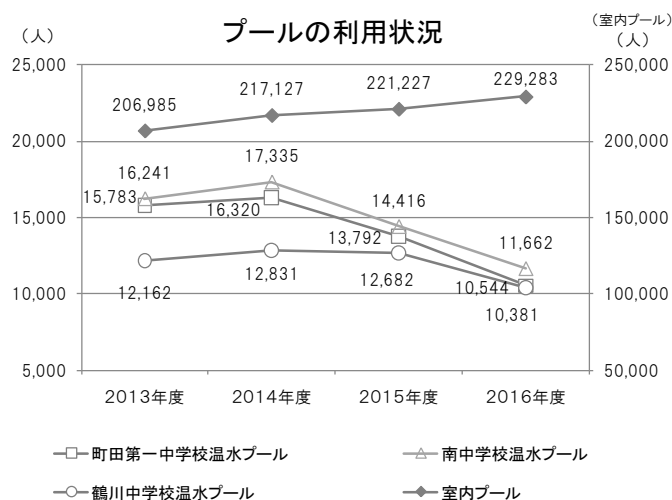
市立室内プールは町田リサイクル文化センターのゴミ焼却余熱を利用した温水プールで、公益財団法人日本水泳連盟公認の 50m プール、25m プール、幼児用プール、健康体力相談室、トレーニング室がある。なお、水泳連盟の公認は下表のとおり。室内プールは国内一般プールAの公認を受け、多くの市民アスリートが参加する大会を主に開催している。

公認プール	施設	大会
国際基準プール	プール公認規則に適用し、10レーン、水深3m 推奨、国際大会に支障ない基準を備えるプール	・オリンピック・世界選手権・ユニバーシアード ・パンパシフィック・アジア大会・東アジア大会 ・アジア選手権・日本選手権 50m、25m ・ジャパンオープン 50m などを開催するプール
国内一般プール・AA	プール公認規則の国際プール又は一般プールに適用し、10レーン、水深2m 以上の施設を有することが望ましい	・国体・インターハイ・日本実業団・インカレ ・ジュニアオリンピック・全国中学・全国国公立などを開催するプール
国内一般プール・A	プール公認規則・一般プールに適用し、8レーン以上、水深 1.35m 以上を有すること(スタート台の設置)	・全国大会県予選・県大会・全国大会ブロック大会 ・全国マスターズ・本連盟主催主要競技会(日中戦、早慶戦等)・本連盟公認競技会などを開催するプール
標準競泳プール	プール公認規則・標準プールに適用し、6レーン以上、水深 1.0m 以上、(スタート台使用の場合:端壁前面6mは水深 1.35m 以上とする)を有するプール	市民大会・記録会・地域予選などを開催するプール

資料：公益財団法人日本水泳連盟「公認プール施設要領」

2 現状

- ・室内プールは「見るスポーツ」の場としての機能を充実した施設となっていない。
- ・観戦スポーツを実施する上位の公認に該当する施設が近隣市にある。
- ・室内プールの利用者数は増加している。
- ・中学校温水プールの利用者数は、開放日数が減少したことにより 2014 年度から減少している。



3 課題

①室内プールの位置付けが明確でない

- ・「見るスポーツ」の場とすべきかどうか検討する必要がある。
- ・今後どのように改修していくかを検討する必要がある。

4 懇談会における主な意見

- ・市民がスポーツをする場所、スポーツを通じて交流する場所といった「するスポーツの場」として位置づけてよいのではないかと。
- ・中学校温水プールは学校利用以外での利用時間の拡充やトレーニング施設の併設を検討するなど、「するスポーツの場」の機能を拡充してもよいのではないかと。
- ・市内3中学校の温水プールは総合型地域スポーツクラブの拠点とするなど、地域の人がより一層利用しやすい環境としていってはどうかと。

4. 参考資料

(1) 懇談会の開催経過

	日時	議題
第1回懇談会	2017年 11月14日(火) 18:30~20:00	1. 開会 2. 委員紹介 3. 事務局より 4. 会長及び副会長の選出 5. 意見交換 ・既存計画の説明 ・町田市スポーツ施設の現状と課題について 6. 閉会
第2回懇談会	2017年 12月19日(火) 18:30~20:00	1. 開会 2. 事務局より 3. 前回議事要旨の確認 4. 意見交換 ・体育館における見るスポーツの充実について ・プールにおける見るスポーツの充実について 5. その他 6. 閉会
第3回懇談会	2018年 1月26日(金) 18:30~20:00	1. 開会 2. 事務局より 3. 第2回懇談会議事要旨の確認 4. 意見交換 ・野球場における見るスポーツの充実について ・陸上競技場における見るスポーツの充実について 5. その他 6. 閉会
第4回懇談会	2018年 2月22日(木) 18:30~20:00	1. 開会 2. 事務局より 3. 第3回懇談会議事要旨の確認 4. 意見交換 ・提言書(案)について 5. その他 6. 閉会

(2)委員名簿

氏名	団体名・所属	役職
かわさき としき 川崎 登志喜	玉川大学教育学部	教授
なみこし いつき 浪越 一喜	帝京大学教育学部	教授
まの よしゆき 間野 義之	早稲田大学スポーツ科学学術院	教授
やまもと まさみ 山本 正実	一般財団法人 町田市体育協会	理事長
おおとも たけひさ 大友 健寿	株式会社ゼルビア 事業部	部長
せきの じゆんた 関野 淳太	株式会社 CASCAVEL FUTSAL CLUBE 事業部	部長
ながとも ようじ 永友 洋司	キヤノンラグビーフットボールクラブ	ゼネラルマネージャー
あべ とおる 安部 徹	町田市スポーツ推進委員	会長
いちかわ けんいち 市川 健一	公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会	副会長
かぬま ゆりえ 鹿沼 由理恵	市内在住トップアスリート(リオパラリンピック銀メダリスト)	
あだち ひろみ 安達 廣美	町田市町内会自治会連合会	会長
おかだ さかえ 岡田 栄	NPO 法人 CCCNET	事務局長
さとう まさし 佐藤 正志	町田商工会議所	専務理事
おおくぼ あきら 大久保 明	一般社団法人 町田市観光コンベンション協会	事務局長

(3)近隣市との施設の比較

①陸上競技場

施設名称	所在地	施設概要	大会開催実績	その他
陸上競技場	町田市	・トラック 400m×8コース (全天候型ウレタン舗装) ・フィールド 7,600㎡ ・補助競技場 6,300㎡(多目的広場) (収容人員) メインスタンド 2,632席 バックスタンド他 7,990席	・明治安田生命 J2リーグ ・ジャパンラグビー トップリーグ	・日本陸上競技 連盟第3種公認 ・J2仕様
相模原麻溝公園 競技場 (相模原ギオンスタジアム)	相模原 市	1周400mの全天候型舗装 トラック、サッカー・ラグビー・ アメフト等の試合も行える 天然芝フィールド、15,300人 収容可能なスタンドを兼ね備える。 ※1	明治安田生命 J3リーグ	・日本陸上競技 連盟第2種公認 ・J3仕様
川崎市等々力 陸上競技場	川崎市	3種公認全天候トラック400m 8レーン フィールド(サッカー併用) 大型映像装置 6.3m×20.0m スタンド収容人員 約22,000人 夜間照明4基 ※2	・明治安田生命 J1リーグ ・日本陸上競技 選手権大会 ・アメリカンフットボ ール・ワールドカ ップ	・日本陸上競技 連盟第3種公認 ・J1仕様
横浜国際総合 競技場 (日産スタジアム)	横浜市	観客席は、国内最大の72,327 席。フィールド内の興奮は、ハイ ビジョン自動走行カメラなどから 両サイド2基の大型映像装置へ 映し出されます。さらに、528台 のスピーカーから伝わる音響で、 臨場感を盛り上げます。観客席 は、4分の3が屋根に覆われてい ます。※3	・明治安田生命 J1リーグ ・2002 FIFA ワー ルドカップ ・日本陸上競技 選手権ルー 競 技大会 ・ジュニアオリンピ ック陸上競技大会	・日本陸上競技 連盟第1種公認 ・J1仕様

※1 相模原ギオンスタジアム(相模原麻溝公園競技場)HP

※2 川崎市建設緑政局「等々力緑地概要」H25.4.1 現在

※3 施設概要 | 日産スタジアムHP

(参考) 公認競技場の区分

		第 1 種	第 2 種	第 3 種	第 4 種
1 周 の 距 離		400m	400m	400m	200m,250m,300m, 400m
距 離 の 公 差		+1/10,000 以内	+1/10,000 以内	+1/10,000 以内	+ 各 40mm以内
走 路	直 走 路	1レーンの幅は1m220 又は1m250で8レーン 又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220 又は1m250で8レーン 又は9レーンとする 長さ115m以上	1レーンの幅は1m220 又は1m250で8レーンとする 長さ114m以上	1レーンの幅は1m220 又は1m250で6レーン 以上とする 長さ114m以上
	曲 走 路	1レーンの幅は1m220 又は1m250で8レーン 又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220 又は1m250で8レーン 又は9レーンとする	1レーンの幅は1m220 又は1m250で6レーン 以上とする	1レーンの幅は1m220 又は1m250で4レーン 以上とする
障害物競走設備		必 要	必 要	無くても可	無くても可
補 助 競 技 場		全天候舗装 400m 第 3種公認陸上競技場	全天候舗装の競技場 があることが望ましい	無くても可	無くても可
各種跳躍場および 各種投てき場		仕様を示す数	仕様を示す数	1ヵ所以上	1ヵ所以上で、条件に合 わない場合は一部の施 設を欠くことができる
ただし、円盤投とハンマー投サークルは兼用してもよい					
収 容 人 員		15,000人以上 (芝生席を含む)	5,000人以上 (芝生席を含む)	相当数	相当数
更 衣 室		300人以上収容し 得ること	100人以上収容し 得ること	利用できる設備 があることが 望ましい	無くても可
トレーニング場		第1種公認競技場ではウエイト・トレーニング場を必要とする			
雨 天 走 路		メインかバックスタンド 側にあることが必要。 舗装材は競技場と 同一にする	設備することが 望ましい	無くても可	無くても可
トラックとフィールドの 舗装材		全天候舗装の施設 を要する	全天候舗装の 施設を要する	全天候舗装の 施設を要する	土質でも可

資料：日本陸上競技連盟「公認陸上競技場および長距離競走路ならびに競歩路規程」

②体育館

所在地	施設数	施設名称	アリーナ		競技面数			観客席数 (席)
			諸室名称	面積 (㎡)	バドミントン(面)	バスケットボール(面)	バレーボール(面)	
町田市	2	総合体育館	メインアリーナ	2,400	12	3	4	固定 1,776 可動 1,008
			サブアリーナ	1,101	6	1	—	
		サン町田旭体育館	アリーナ	1,265.4	8	2	2	可動 504
		合計	4,766.4	26	6	6	3,288	
相模原市	5	総合体育館	大体育室	2,214	12	3	4	1,598
			中体育室	1,064	6	1	2	
			小体育室	629	4	1	2	
		北総合体育館	体育室	1,887	12	2	3	1,006
		市体育館	体育室	570	4	1	2	
		牧郷体育館		551	2	2	2	
		沢井体育館		551	2	2	2	
		合計	7,466	42	12	17	2,604	
藤沢市	2	秋葉台文化体育館	第1体育室	2,093	12	3	4	固定 3,000 移動 1,000
			第2体育室	630	3	1	1	
		秩父宮記念体育館	メインアリーナ	1,789	10	2	2	787
			サブアリーナ	730	4	1	1	
		合計	5,242	29	7	8	4,787	

③野球場

施設名称	所在地	グラウンド仕様	広さ(m)	照明灯(基)	収容人員(人)	駐車場(台)
小野路球場	町田市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 93.5	6	内野 1,999 外野 — 合計 1,999	125
ダイワハウス スタジアム八王子	八王子市	内野 土 外野 天然芝	中堅 122 両翼 98	6	内野 3,126 外野 8,163(芝生席) 合計 11,289	※
NETS多摩 昭島スタジアム	昭島市	内野 土 外野 天然芝	中堅 121 両翼 97	6	内野 1,274 内野 1,240(芝生席) 外野 2,798(芝生席) 合計 5,312	160
立川公園野球場	立川市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 97	4	内野 外野 合計 10,000	※
府中市民球場	府中市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 外野 合計 5,000	※
サーティーフォー 相模原球場	相模原市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 8,064 外野 8,000(芝生席) 合計 16,064	315
大和スタジアム	大和市	内外野 人工芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 5,000 外野 6,000(芝生席) 合計 11,000	311
サーティーフォー 保土ヶ谷球場	横浜市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 95	6	内野 7,179 外野 5,418(芝生席) 他 2,220(立見席等) 合計 14,817	394
バッティングパレス 相石スタジアム ひらつか	平塚市	内野 土 外野 天然芝	中堅 120 両翼 91	6	内野 8,000 外野 8,000(芝生席) 合計 16,000	1,000

※ 観客者が駐車できる駐車スペースはなし。

④プール

施設名称	所在地	施設概要	観覧席等
室内プール	町田市	50 m 公認プール、25mプール、幼児プール(すべり台)、	観客席 773 席
横浜国際プール	横浜市	メインプール(50m×10 コースの国際公認プール)、サブプール(50m×8コース(通常25m×水深1.0m 25m×水深2.5m の2面)、25m×25m 水深5mのダイビングプール	・メインプール 約4,000席の観客席 (国内最大級の国際公認プール) ・サブプール 約400席の観客席
さがみはら グリーンプール	相模原市	・50mプール 50m×25m 10コース 水深通常1.2m(可動床) ・飛び込みプール 22m×25m 水深5.0m～0.4m(可動床) ・25mプール 25m×17m 水深1.2m	・50mプール東・西 観覧席2043席、 立見席1,000人相当 ・25mプール観覧席 椅子席56席

